

「A.R.T.S.再始動について」第一回会合の内容  
日時:2003年9月25日(木)午後7時30分～  
会場:(財)せたがや文化財団企画室  
記録:矢作勝義

## 参加者

秋葉正子(SPIRAL MOON 主宰・演出・役者)  
小川智紀(NPO 法人演劇百貨店 番頭)  
河口礼志(Rel-ay 制作)  
菊池領子(R PRODUCTION 文化事業プロデューサー)  
木内宏昌(青空美人 主宰)  
すずきこーた(ワークショップ・ファシリテーター)  
種田光徳(フリー 役者・制作)  
野村史(Theatre 劇団子 制作)  
羽鳥友子(演劇レーベル Bo-tanz 役者)  
半澤寧子(チープサイド製作所 脚本家)  
星達也(SPIRAL MOON 役者)  
榎木博行(スキニ&ステージウェブ 主宰)  
松田夕香(芸術運動会 主宰・制作)  
村松由理(スイッチャーズ 制作)  
森千江子(回転 OZORA 制作)  
矢作勝義(世田谷パブリックシアター 制作)

19時30分過ぎ、それぞれ参加者が自己紹介から始まる。

### すずきこーた

もともと演劇レーベルポータンツのメンバーとして A.R.T.S.の活動に参加し、そこでの活動をきっかけにワークショップなどを始めました。現在は、世田谷パブリックシアターのワークショップ事業を中心に、普段演劇と係わり合いのない人を対象としたワークショップや小・中学生などを対象としたワークショップを行っています。また神奈川県立大師高校で演劇表現という授業の非常勤講師を担当しています。特に所属する団体はなく個人でやっています。

### 村松由理

演劇制作会社での勤務経験があります。現在はダンスカンパニー『スイッチャーズ』の制作をやっています。

### 森千江子

回転 OZORA というプロデュース・ユニットで制作を担当しています。作・演出家と制作担当者の二人のユニットで、役者やその他のスタッフは公演の都度集めて、年に2回ぐらい公演を行っているプロデュース・ユニットです。

#### 羽鳥友子

演劇レーベルポータンツという劇団の役者です。劇団としては A.T.R.S.の立ち上げ時期から参加していますが、劇団代表や制作担当者が変わったりしているため、今日は役者である自分が参加しています。新たなる展開に期待しています。

#### 秋葉正子

SPAIRAL MOON というプロデュース・ユニットの主宰をしています。公演の都度に役者やスタッフなどを集めて上演しており、様々なことについての情報に枯渇しており、新しいつながりを求めて参加しました。

#### 河口礼志

Rel-ay というプロデュース・ユニットで制作をしています。公演ごとに役者を集めての公演を行っています。今回は新たなる出会いができればと期待して参加しました。

#### 野村史

Theatre 劇団子の制作をしています。10年近く活動している劇団です。昨年のくりっくフリーステージに参加しアタートラムで上演しました。その縁で今回の情報を知りました。様々な形での交流を深めることができるのではないかと思います。参加しました。

#### 小川智紀

NPO 法人演劇百貨店の番頭(制作)をしています。演劇百貨店は、世田谷パブリックシアターで行われていた、『中学生のための演劇ワークショップ』に集まっていたメンバーを中心に、劇場の外でもワークショップが可能な場があるのではないかと考えて設立したNPO法人です。演劇ワークショップのファシリテーターの派遣と演劇ワークショップを中心にアートと教育を考えていくという活動をしています。

#### 木内宏昌

青空美人という劇団の主宰をしています。自分たちの活動にプラスになることがあればと思います。参加しました。

#### 半澤寧子

脚本家であり、制作集団チープサイド製作所の所長を務めています。今回は、新たな出会いと勉強ができるかと思ひ参加しました。

#### 種田光徳

現在はフリーの役者です。以前は、『劇団インベダーじい』という劇団で制作・役者をしました。その頃に、世田谷パブリックシアターのスタッフにいろいろ相談などをしにきていたことにつながり、今回の情報を聞き、何か自分が役に立つことができればと参加しました。

#### 松田夕香

『東京あたふた』という劇団で衣裳を担当しているほか、芸術運動会というグループで様々なジャンルのアーティストとネットワークを作り野外でのイベントを開催するという活動などを行っています。

以下会合の途中から参加

菊池領子

R プロダクションとして文化交流事業に取り組んでいます。中国の作品を日本で上演できるようにその橋渡しのための活動をしています。

星達也

SPIRAL MOON で役者として活動しています。その他「劇団おばけおばけ」でも役者として活動しています。

柁木博行

個人で演劇のホームページを立ち上げていて、演劇ジャーナリストとして活動しています。  
読むステージパフォーマンス『ぷちくり』というものを有志で発行しています。

まずは、世田谷パブリックシアターの矢作とすずきこーたより、A.R.T.S.の成り立ちについての説明。

1997年世田谷パブリックシアターの開館前に、劇団東演などの世田谷区内で活動していた劇団の制作者を中心に、世田谷パブリックシアターが開館するにあたり、劇場と世田谷区内で活動している劇団などとのコミュニケーションを図るため。それに加えて、世田谷区内の劇団や演劇集団の横のつながりを深めるためのネットワークを立ち上げようと、1996年、世田谷区内に住所を持つ劇団などに声をかけて会合を持ったのが始まりでした。ただし、この話をしている矢作はこの会合から参加したため、これ以前の段階の話については正確でないかもしれません。

当初は劇場がオープンするということもあり、興味を持っている劇団なども多く、参加者は多くありました。(劇団ACT、劇団員の火、劇団京、うかれや、放送表現教育センター、演劇レーベルポータンツ、劇団夢彦プロジェクト、演劇プロジェクト劇城、劇団東演、燐光群、1missing、劇団プラネット、劇団Kju、花組芝居、劇団星座、劇団風の子東京、劇団レクラム舎、など)

A.R.T.S.の活動としては、世田谷パブリックシアターオープン記念のフリーステージ演劇部門の世話役・実行委員会(これは現在も続いています)を務めることから始め、世田谷パブリックシアターのドラマ・リーディングの演出・出演なども行いました。そうした企画を行いながらA.R.T.S.の方向性や活動内容や枠組みを組み立てるための会合を重ねていき、規約などを決めました。また、1998年に世田谷パブリックシアターがプレヒト特集を行った際には、稽古場でプレヒト・ドラマリーディングを上演しました。それと、毎年秋に行われる世田谷アートタウン『三茶 de 大道芸』では、ウォーキング・アクト出演者をA.R.T.S.内外から募り、取りまとめを行っています。

世田谷区内で活動する劇団や集団間のネットワークの強化という目的と、世田谷パブリックシアターとコネクションを太くするという目的をもってのスタートしたのですが、もともと劇団や集団としての実績を持っているところは、A.R.T.S.という場がなくても、独自に世田谷パブリックシアターとの関係を作り、世田谷パブリックシアターでの上演活動などを実現できてしまう状況になったこと。また、小さな劇団などは、自分たちの創作活動を第一と考えるため、A.R.T.S.の活動に率先して参加できるわけではなかったということ。それと、当初ドラマ・リーディングなど劇場から提案された企画をA.R.T.S.が受けるという形で実現できたことなどもありましたが、劇場の制作

スタッフが忙しくなるにつれ劇場側からの提案がなくなってきたという状況と、新しい参加者を積極的に募るといったことなどが実現できなかったということ。また、A.R.T.S.が独自に企画を実現しようとするには、様々な基盤が脆弱であったこと、特に参加者が制作者であったということは、実際に何かを作るにあって演出家や出演者などを別に集めなければならなかったということもあり、徐々に限られたメンバーしか参加しない状況となっていました。

現在では始めに説明をした、フリーステージやアートタウンなどの非常に限られた内容での活動だけが継続されているという状況になっていました。

以上が、大まかですが A.R.T.S.に関するこれまでの経緯と現状についての説明です。

では、なぜ今再び A.R.T.S.としての活動を見直そうとしているのかということを中心に説明します。

最近、世田谷パブリックシアターでは、野村萬斎主演「ハムレット」に代表されるような大型の主催公演や、海外のカンパニーなどとの国際共同制作作品、国内のカンパニーとの提携公演など、比較的大規模な公演が行われています。

一方で開館当初から、演劇に触れたことのない人や小学生・中学生を対象とするワークショップ、学校の先生などを対象とするワークショップやプロの俳優を対象とするワークショップなどを実施しています。レクチャーやドラマ・リーディングなど、演劇的な知識を深めたいと考えている人たちへのアプローチなど、教育普及活動といわれる事業も数多く実施し、その活動は各所から注目されてきました。

また、最近では世田谷区内の小中学校を訪問して、演劇ワークショップや古典芸能ワークショップを行うなど、地域の学校教育との繋がりを深めていくような教育普及事業を活発に展開しています。

このようにいわゆるトップレベルの上演活動と、演劇の底辺拡大につながる教育普及事業が展開されていく中で、その中間に存在する、積極的に演劇活動を世田谷区内で行っている人たちと劇場との関係を構築していくということが、現在の世田谷パブリックシアターでは抜け落ちているのではないかと私こと矢作は個人的に考えています。

つまり、地元世田谷を中心とした東京地域で今後何年か先に演劇界を支えるであろう人材の発掘・育成のためのことを実施しておらず、このままでは今後演劇界から人材がいなくなってしまうのではないだろうかと考えています。世田谷パブリックシアター芸術監督に就任した野村萬斎が今年 37 歳であり、彼のように若い人材が芸術監督として活動している劇場において、若い世代の才能を生かすための手段や方法をもっていないままである状況をなんとかしたいと矢作が個人的に考えています。

そんな中で、当初制作者のネットワークとして始まった A.R.T.S.ですが、今後はそういうことにとらわれることなく演劇や舞台芸術に携わっている集団や個人が参加する、それも制作・演出・脚本家・技術者・役者というような役割に関係なく参加できるような会合・ネットワークにしていくことが必要なのではないかと考えています。

現在の東京の演劇状況からすると、A.R.T.S.立ち上げの頃の7年前とは異なり、プロデュース集団・ユニットというものが多くなってきており、実際それに応じて、劇団に所属しない役者というのも増えてきています。そのような状況からも、どのような公演を企画している、そのためにどのような役者やスタッフを必要としている、といった情報や、その逆に、どのような役者が出演できる場を求めている、どのようなスタッフが活動できる場を求めているなどの情報を交換できる場を構築し、新しい枠組み、新しい情報のネットワークを構築する場として活動できないだろうかと考えています。

それとともに、「北九州演劇連絡会」というものが今年の夏にオープンした北九州芸術劇場を中心として発足したという情報を聞き、公共劇場とその周辺地域で演劇や舞台芸術活動を行っている人々との関係をどのようにしていくかということ、改めて考える時期なのではないかと思ったのです。

現時点では、A.R.T.S.で行う企画や方法論など具体的なものがあるわけではありません。

ただ、こんなことが出来るのではないかという案はいくつかあります。世田谷パブリックシアターの制作スタッフを講師としての勉強会を行う。例えば、私が講師となって、各種助成金申請書の書き方講座を行うとか、その他戯曲の勉強会などのいわゆるゼミナール的なことなどを行う。その他はまだ白紙です。集まってきた皆さんとアイデアを出しながら企画し実践できればと考えています。

今後のこの会合の予定としては、年内は、11月上旬と12月中の2回程度の会合を開き、今回と同様に説明会という形で、何を考えてこのような会合を開いているのかということに参加者の方々と話しながら、参加されている方々の現状や意見を聞き、今後のA.R.T.S.としての活動の方向性、されにはA.R.T.S.という枠組みそのものについての話をすすめたいと思っています。

次回の予定としては11月上旬に第2回目の会合を開きたいと考えているので、皆様にご連絡いたしますのでぜひまたご参加ください。

また、皆さんの周りでこのようなことに興味がありそうな人がいたらお声をかけいただければ幸いです。

以上

当日の会合を録音したテープを元に原稿を起こしていますが、加筆修正を加えている部分があります。また、参加者からの質問などは、とりあえず今回の内容からは省略させていただきました。年内の会合が終わった時点で、参加者の疑問点や質問点をまとめてご案内できるようにしたいと考えています。